施策5−①	
地域共生社会づくりの推進	
目指す姿	ソーシャルインクルージョンの考え方に基づき、多様な団体や関係機関等が地域の中で互いに支え合い、地域をともに創っていく地域共生社会の構築が進んでいます。

施策の現状と課題（前期基本計画）

・核家族世帯の増加とともに、ひとり親世帯や単身世帯等、家族形態が多様化してきている一方、地域住民同士のつながりによる日常的な支え合いや見守り等の機能が低下してきていることから、社会からの孤立や生活困窮、生きづらさを背景とした不安やひきこもり、8050問題等の多様かつ複合的な地域生活課題への対応が求められています。地域福祉の推進のため、包括的な支援体制の構築を進めるとともに、相互に支え[illegible]齢者まで、障がいの有無によらず[illegible]域共生社会の構築を進めていく[illegible]
・増加・多様化す[illegible]を基盤とした相談機能の充実を[illegible]題の解決力の向上を図るため、[illegible]カーを社会福祉協議会等に配置していますが、難病を抱える人や高齢者、障がい者、外国人等の支援を必要としている人や制度の谷間にある人も含めて全ての人が相談できる包括的な支援体制の更なる構築を進めていく必要があります。
・地域福祉の担い手となる人材の確保及び育成を行うため、各種講座等を開催していますが、地域における支え合いを進めるためには、地域にいる人材を発掘し、活動につなげていく必要があります。また、民生委員・児童委員の欠員については、改善の方向に向かってはいますが、成り手不足は依然として続いており、民生委員・児童委員の確保のため、支援体制等を検討する必要があります。

現行計画の施策の現状と課題

→

方向性Ⅰ　地域で支え合う仕組みづくり

地域における重層[illegible]士のケア等、多様な主体が互いに協力し[illegible]支援が受けられる仕組みの構築を図りま[illegible]の発掘・育成を支援していくとともに、活[illegible]できるよう必要な支援を図ることで人材の[illegible]

現行計画の現状と課題に対する方向性

現状	課題
・全国的な少子化が深刻化する中、狛江市における合計特殊出生率は、近年ほぼ一貫して全国水準、都水準を下回って推移していることから、年少人口・生産年齢人口が減少し続ける一方、令和[illegible]の減少と超高[illegible] ・超高齢化や[illegible]え合いの基盤[illegible]社会的孤立の[illegible] ・人生100年[illegible]あり、高齢者[illegible]支え、また、地[illegible]り、一人ひとり[illegible]せる包摂的な[illegible] ・市では、地域[illegible]度から段階的[illegible]化・複合化し[illegible]成を進めてま[illegible] ・令和4年度[illegible]的支援体制整[illegible] ・令和4年度[illegible]委員会を設置[illegible]題解決に向け[illegible]し、福祉のまち[illegible]メントを行い、[illegible]課） ・令和5年3月に多世代・多機能型交流拠点ふらっとを九ふを設置し、対象者を限定することなく、子どもから高齢者まで市民誰もがいつでも気軽に立ち寄ることのできる交流の場を提供し、市民同士の交流を進めています。（福祉施策課）	・市民同士の関係性を再構築することにより、人生における様々な困難に直面した場合でも、市民誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、そ[illegible]れています。（福[illegible]受け止め、市、市[illegible]りを進める必要[illegible]談できる「誰一人[illegible]点を住民の身近[illegible]他者との交流を[illegible]ます。（福祉政策[illegible]育てる人材の好[illegible]） [illegible]方の強みを活か[illegible]づくりを目指す必

市で捉えている現状と課題を記載しています。

会議では、

①次期計画に記載すべきと思われる項目

②委員の皆様が現状・課題と感じている項目

③記載はないが、現状・課題として捉えるべき項目

についてご発言いただければと思います。

参考指標

・福祉のまちづくり委員会の設置数（地区）
【目標値（3）】
(H30)　(R2)　(R3)　(R4)
　0 → 0 → 2 → 3